

父と継母から虐待された経験を持つ神戸市北区出身で映像制作会社経営、島田妙子さん(40)は大阪府島本町で23日、神戸市中央区で開かれた自殺予防の公開講座で講演した。虐待の罪悪感に悩み自殺した父を引き合いに「悩みをため込むのではなく、手遅れになる前に相談して」と訴えた。【内橋寿明】

中央区で自殺予防講座

島田妙子さん講演

講演の題名は「命の鼓動」被虐待の淵を生き抜いて」。島田さんは4歳のときに両親が離婚し、兄2人とともに児童養護施設へ入所。小学2年の時、父が継母と迎えに来て引き取られたが、新生活で虐待が始まった。当時22歳だった継母には毎日のように、たばこの火やアイロンを押しつけられ、金属の靴べらで殴られた。優しくした父も継母の手前、暴力を振るうようになった。

父に頭を湯船に押しつけられたことがある。意識が遠のく中、父が継母に向かって「これで気が済んだやろ」と怒鳴る声を聞いた。島田さんは「父の虐待は本心ではなかったと気づいた瞬間だった」と語った。

自分を虐待した罪悪感から逝った父

毎日毎日、継母に私たち連れ子のことをうるさく言われ、おかしくなっていた」と振り返る。

中学2年でも体重が30キロに満たず、当時の担任教諭が強く主張して再び児童養護施設へ。継母と離婚した父は施設にいる島田さんに「妙子、とにかく悪かった」と電話をし、劇物を飲んで自殺した。島田さんは講演で「父のように自分の力で戻れないところまで追い込まれる前に、誰かに気持ちをぶつけて」と呼びかけた。

中学卒業後は寮完備の工場で働き、19歳で映像制作会社に転職。22歳で結婚し3児に恵まれた。人を恨むことはない」という島田さんは成人後、継母と食事に行く仲となり謝罪を受け入れたが、継母は3年前に誰にもみとられず「孤独死」した。現在は再会した実母と同居し、義母の介護と自閉症の長男の子育てに追われている。

虐待の記憶は封印していたが、2年前、心の支えだった1歳上の次兄が白血病で亡くなり、考えが変わった。死期を悟った次兄に生前、「人の役に立つことをしたかった。俺の分まで頑張ってくれ」と告げられた。妻と幼い子2人をのこして逝った次兄の無念さを思い、「元氣な自分がやらなくては」と人前で体験を語る決心をした。

昨年、半生をつづった自伝「e love smile」2巻を出版。各地で虐待や自殺防止を訴える講演活動を行っている。今回は社会福祉法人「神戸いのちの電話」が主催した。講演依頼や問い合わせは、島田さんが経営する「イメージット」(06・6262・3150)へ。

講演の記憶は封印していたが、2年前、心の支えだった1歳上の次兄が白血病で亡くなり、考えが変わった。死期を悟った次兄に生前、「人の役に立つことをしたかった。俺の分まで頑張ってくれ」と告げられた。妻と幼い子2人をのこして逝った次兄の無念さを思い、「元氣な自分がやらなくては」と人前で体験を語る決心をした。

手遅れになる前に相談を



虐待された体験を語る島田妙子さん
 —神戸市中央区で

◆毎日新聞掲載記事 (平成24年9月24日(月))